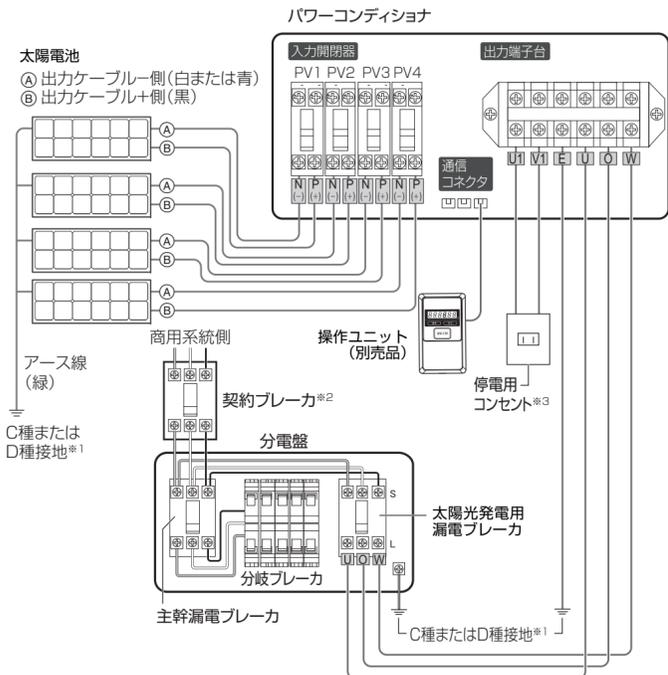


3. 配線する

1 システム系統配線図を確認する

操作ユニット（別売品）を使用するシステムの系統配線図を示します。（機器のイラストはイメージ図です）

- 操作ユニットについて、詳しくはパワーコンディショナの「施工マニュアル」をお読みください。



- ※ 1. パワーコンディショナ、太陽電池、分電盤は別々に接地してください。太陽電池の接地方法についてはお買い上げの販売店にご確認ください。
- ※ 2. 管轄の電力会社によっては、契約ブレーカを使用しない場合があります。
- ※ 3. 停電用コンセントは工事店様でご準備ください。

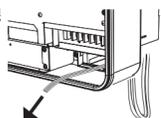
2 配線を引き込む

配線の引き込み方法は、「**(A)** 隠べい配線する場合」、「**(B)** 配線ダクト・電線管 (PFD 管) を使用する場合」の 2通りあります。引き込み方法によって異なる施工が必要になります。

■ (A) 隠べい配線する場合

壁面の配線口から引き出した配線を、パワーコンディショナの本体入線部の背面から通す

- 配線方法については、「3 配線をつなぐ」をお読みください。



■ (B) 配線ダクト・電線管 (PFD 管) を使用する場合

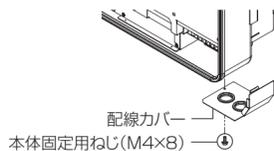
出力端子台への配線は配線カバーの配線穴から配線を引き込み、入力開閉器への配線はパワーコンディショナ本体底面の配線穴から配線を引き込みます。

- 通信コネクタへの配線は、状況に合わせてどちらから引き込んでください。

- 出力端子台側から配線を引き込む電線管 (PFD 管) または配線ダクトを使用し、出力端子台側から配線を引き込みます。
- 電線管 (PFD 管) を使用する場合は、28φの電線管 (PFD 管) をお使いください。

1 配線カバー (同梱) を本体固定用ねじ (M4×8) (同梱) で固定する

締め付けトルク：1.5 ± 0.3N・m



2 配線カバーの膜付きグロメットを取り外し、電線管 (PFD 管) または配線ダクトを取り付ける

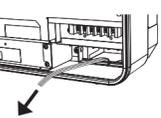
(電線管 (PFD 管) による施工を行う場合) (配線ダクトによる施工を行う場合)



- 電線管 (PFD 管) は脱落防止のため壁面へ確実に固定してください。また、最下部に水抜き穴を開けてください。

3 電線管 (PFD 管) または配線ダクトから引き込んだ配線を、本体入線部の背面から通す

- 配線方法については、「3 配線をつなぐ」をお読みください。



● 入力開閉器側から配線を引き込む

電線管 (PFD 管) を使用して、入力開閉器側から配線を引き込みます。

- 28φの電線管 (PFD 管) をお使いください。

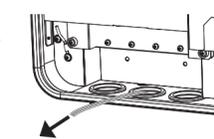
1 パワーコンディショナ本体底面の膜付グロメットを取り外し、電線管 (PFD 管) を取り付ける

- 電線管 (PFD 管) は、脱落防止のため壁面へ確実に固定してください。また、最下部に水抜き穴を開けてください。
- シーリング機能のない電線管 (PFD 管) をご使用の場合、パワーコンディショナ本体底面の配線穴と電線管 (PFD 管) コネクタの隙間に、防水のためコーキングを行ってください。

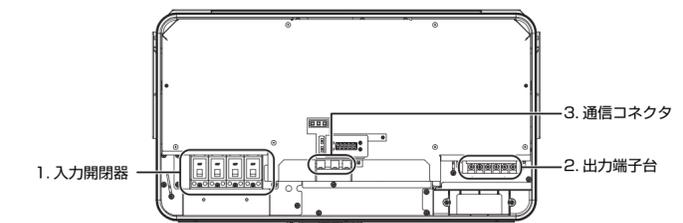


2 電線管 (PFD 管) から配線を引き込む

- 配線方法については、「3 配線をつなぐ」をお読みください。



3 配線をつなぐ

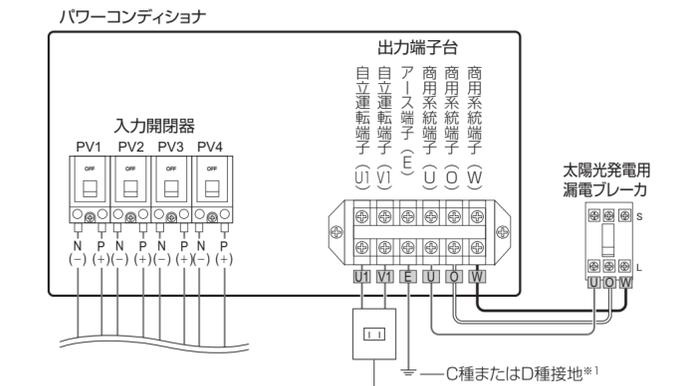


- 配線前にパワーコンディショナの入力開閉器と太陽光発電用漏電ブレーカが「オフ」になっているか確認してください。
- 配線前に太陽電池に電線が接続されていないことを確認してください。

1 入力開閉器に配線をつなぐ

- 太陽電池の系統ごとにパワーコンディショナの入力開閉器へ接続してください。

2 出力端子台に配線をつなぐ



- ※ 1. アース線は大地に直接アース接続してください。
- ※ 2. 停電用コンセントは工事店様でご準備ください。停電用コンセントには停電用コンセントラベル (同梱) を貼り付けてください。
- 電線は、パワーコンディショナ、太陽電池の順で接続してください。
- 配線後は、入力開閉器端子カバー (同梱) でねじ部をカバーしてください。
- 配線には以下の部品をご使用ください。

配線する端子	使用する部品
入力開閉器：N (-)、P (+) 端子	<ul style="list-style-type: none"> ● ケーブル (表面の「工事店様で準備する部材・機器」をご確認ください) ● 圧着端子 (板状端子) (同梱) ● 絶縁キャップ (同梱) N (-) 端子：青 P (+) 端子：赤
出力端子台：自立運転端子 (U1、V1 端子) ^{※3}	<ul style="list-style-type: none"> ● ケーブル (表面の「工事店様で準備する部材・機器」をご確認ください) ● φ1.6 ケーブル用圧着端子 (丸型端子) (同梱) ● 絶縁キャップ (青) (同梱)
出力端子台：商用系統端子 (U、O、W 端子)	<ul style="list-style-type: none"> ● ケーブル (表面の「工事店様で準備する部材・機器」をご確認ください) ● 圧着端子 (丸型端子) (同梱)^{※4} ● 絶縁キャップ (同梱)^{※4} U 端子：赤 O 端子：白 W 端子：黒
出力端子台：アース端子 (E 端子)	<ul style="list-style-type: none"> ● ケーブル (表面の「工事店様で準備する部材・機器」をご確認ください) ● 圧着端子 (丸型端子) (同梱) ● 絶縁キャップ (緑) (同梱)

- ※ 3. ケーブルと専用の停電用コンセントは定格が 15A のものを使用してください。
- ※ 4. (KP44M-J4-HQ) 5.5mm² または 8mm² ケーブル用をご使用ください。(KP55M-J4-HQ) 8mm² または 14mm² ケーブル用をご使用ください。

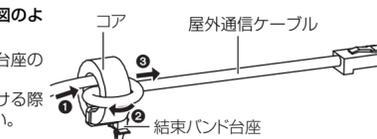
- 配線時の締め付けトルク
- 入力開閉器 (N (-) 端子、P (+) 端子)：1.8 ± 0.2N・m
- 出力端子台 (U1、V1、E、U、O、W 端子)：2.35 ± 0.35N・m
- 電動ドライバやインパクトドライバ等の過剰トルクがかかる工具は使用しないでください。
- 端子ねじが斜めの状態で締め付けしないでください。
- 日中は太陽電池が発電状態になりますので、感電および短絡には十分注意してください。
- 圧着端子とケーブルの圧着方法および配線時の注意事項については、パワーコンディショナの「施工マニュアル」をお読みください。

3 通信コネクタに配線をつなぐ

- 操作ユニットを接続する場合は、屋外通信ケーブルを通信コネクタ 1 につないでください。
- 屋外通信ケーブルと入力開閉器・出力端子台へのケーブルを一緒に結束しないでください。

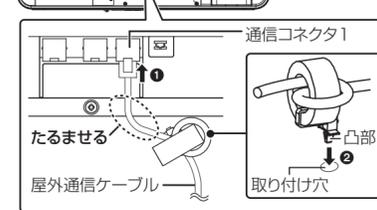
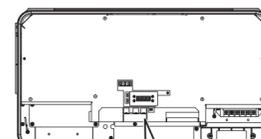
1 コア (同梱) に屋外通信ケーブルをどのように巻きつける

- 屋外通信ケーブルは、結束バンド台座の反対側から通してください。
- 屋外通信ケーブルをコアに巻きつける際には、以下の点に注意してください。
 - ケーブルに傷をつけない
 - ケーブルを引っぱり過ぎない
 - ケーブル先端のプラグのツメを引っ掛けない



2 屋外通信ケーブルを通信コネクタに差し込み、コアの凸部を取り付け穴に押し込む

- 凸部が抜けがないことを確認してください。
- 通信コネクタとコアの間のケーブルの長さは、たるませて余裕を持たせてください。
- 屋外通信ケーブルは、KP-SW1-CC-OD-□ (別売品) をお使いください。
- パワーコンディショナを複数台接続する場合や計測ユニットを使う場合は、パワーコンディショナの「施工マニュアル」をお読みください。

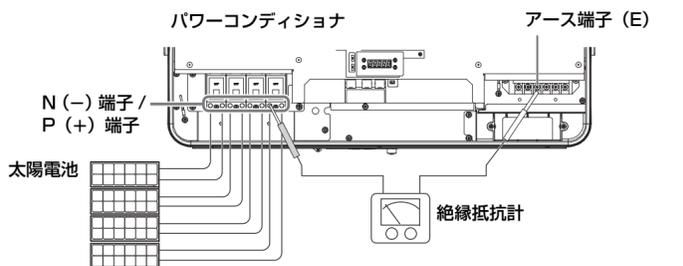


4. 太陽電池の絶縁抵抗と直流電圧を測定する

1 太陽電池の絶縁抵抗を測定する

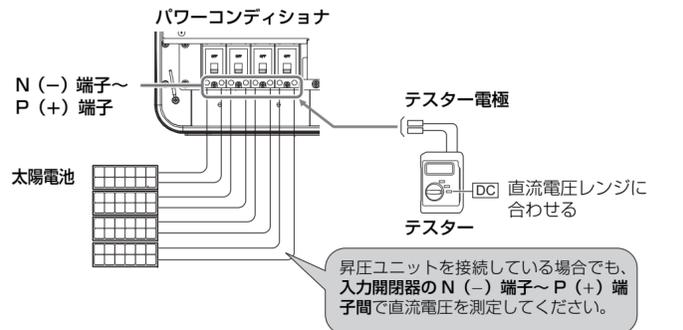
- 1 パワーコンディショナ内のすべての入力開閉器と太陽光発電用漏電ブレーカを「オフ」にする
- 2 入力開閉器 (PV1 ~ PV4) の P (+) 端子とアース端子 (E) 間、および N (-) 端子とアース端子 (E) 間の絶縁抵抗を測定する
 - 先に P (+) 端子をすべて測定し、合格範囲を満たしているか確認後に、N (-) 端子を測定してください。

合格範囲：0.2MΩ 以上



2 太陽電池の各系統の直流電圧を測定する

- 1 パワーコンディショナ内のすべての入力開閉器と太陽光発電用漏電ブレーカを「オフ」にする
- 2 入力開閉器 (PV1 ~ PV4) の N (-) 端子 ~ P (+) 端子間の直流電圧を測定する
 - 各系統の電圧差が数ボルト以内であることを確認してください。
 - 併せて、接続した太陽電池の直並列が正しいか確認してください。パワーコンディショナの最大入力電圧を超える電圧が印加された場合、発煙・発火のおそれがあります。



5. 配線部の隙間を埋める

配線が終わったら、配線部の隙間を埋める施工をしてください。「**(A)** 隠べい配線する場合」/ 「**(B)** 配線ダクト・電線管 (PFD 管) を使用する場合」では一部手順が異なりますのでお気をつけください。

- 水滴や小動物、虫等がパワーコンディショナ内部に侵入することを防止するため、必ず該当箇所にコーキングおよびパテ埋めを行ってください。

- 隙間がないようにパテ埋めしてください。
- 穴埋め用パテが不足する場合は、工事店様でご準備ください。

1 「(A) 隠べい配線する場合」のみ 壁の配線口にコーキングを行う

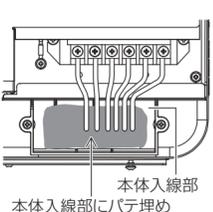
- 変性シリコン材でコーキングを行ってください。



コーキング (変性シリコン材)

2 「(A) 隠べい配線する場合」/ 「(B) 配線ダクト・電線管 (PFD 管) を使用する場合」 穴埋め用パテ (同梱) で本体入線部の隙間を埋める

- 本体入線部から配線を引き込まないときもパテ埋めしてください。

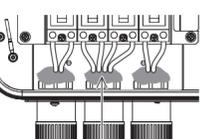


本体入線部

本体入線部にパテ埋め

3 「(B) 配線ダクト・電線管 (PFD 管) を使用する場合」のみ 穴埋め用パテ (同梱) でパワーコンディショナ本体底面の電線管 (PFD 管) 先端の隙間を埋める

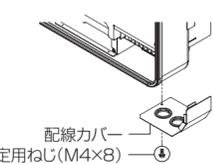
- パワーコンディショナ本体の内側から施工してください。



電線管 (PFD 管) 先端の隙間にパテ埋め

4 「(A) 隠べい配線する場合のみ」 配線カバー (同梱) を本体固定用ねじ (M4×8) (同梱) で固定する

締め付けトルク：1.5 ± 0.3N・m

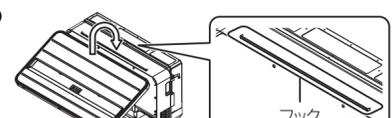


配線カバー

本体固定用ねじ (M4×8)

6. フロントカバーを取り付ける

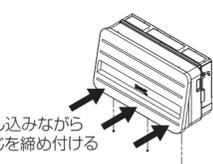
1 フロントカバーを本体上部のフックに確実に掛ける



フック

2 フロントカバーの正面下側を押し込みながら、フロントカバー固定ねじ (3本) を締め付ける

- パワーコンディショナ本体の取り付け前に取り外したねじ (3本) を使用します。
- フロントカバー側の穴と本体のねじ穴の位置を合わせて、ねじを締め付けてください。



押し込みながらねじを締め付ける

締め付けトルク：1.5 ± 0.3N・m